

# 2021年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名: 化学×里山×ひと

～SDGsでつなぎ、みんなで未来へ～

提案者名: 千葉縣市原市

取組内容の概要: 国内有数の石油化学コンビナートを擁する都市として、2050年カーボンニュートラルと持続的発展の両立に向け、市原発サーキュラーエコノミーを実現する。併せて、里山環境を活かしたまちづくり、子ども・若者が希望を実現できる社会構築への取組等、多様なステークホルダーとの対話と連携を通じ、誇れる未来を創造する。

【市原市SDGs戦略】 総合計画と連動し、市全体の取組を先導するリーディングプロジェクトを設定した計画(2021～2030)

市原市  
SDGs戦略 I  
(2021～2023)

- ・プロジェクト1(PJ1): 臨海部コンビナートとともに挑む 市原発サーキュラーエコノミーの創造
- ・プロジェクト2(PJ2): 自然との共生 里山・アートを活かした持続可能なまちづくり
- ・プロジェクト3(PJ3): 全ての子ども・若者に夢と希望を 子ども・若者の貧困対策

経済



(経済→社会)の相乗効果

地域産業が活性化し就業機会を創出

社会



(社会→経済)の相乗効果

若者への訴求力を高め、  
地域産業に優秀な人材を呼び込む

課題 「ひとの力」のサステナビリティ

(社会面でのチャレンジ)

- 人口減少(若者・女性の転出超過)
- 子育て・教育環境の充実
- 子ども・若者の貧困対策

課題解決の取組

- PJ1 市原発サーキュラーエコノミーの創造
- PJ3 安心して子育てできる環境の整備
- PJ3 きめ細かな子育て支援
- PJ3 子ども・若者の貧困対策の推進
- PJ2 コミュニティアートを通じたまちづくり(再掲)

市原発サーキュラーエコノミーの創造  
2050年カーボンニュートラルの実現と  
持続的発展の両立

～ 企業・市民・行政が一体となったポリスチレン樹脂の  
ケミカルリサイクル実証事業 ～

環境



課題 里山環境のサステナビリティ(環境面でのチャレンジ)

- 荒廃する里山、激甚化する自然災害への対応
- 2050年カーボンニュートラルへの貢献
- コミュニティの希薄化 ● 新たな日常、働き方への対応

課題解決の取組

- PJ1 市原発サーキュラーエコノミーの創造
- PJ2 里山暮らし、里山ワークの推進
- PJ2 市原市地域おこし協力隊
- PJ2 コミュニティアートを通じたまちづくり
- PJ2 いちはらポイント制度のICT化 PJ1 再生可能エネルギーの積極的な利用等

(社会→環境)の相乗効果

多様なステークホルダーと連携し、  
ごみの減量化や温室効果ガスを削減

(環境→社会)の相乗効果

環境意識の向上により、環境配慮行動  
を促進し、地域の課題解決や愛着・誇り  
の創出

課題 石油化学コンビナートのサステナビリティ

(経済面でのチャレンジ)

- 臨海部企業の持続的な発展  
(国際競争の激化、内需の減少、設備の  
老朽化、カーボンニュートラルへの対応等)
- 優秀な人材の確保・育成

課題解決の取組

- PJ1 市原発サーキュラーエコノミーの創造
- PJ1 新産業導入の促進
- PJ1 超小型電気自動車(EV)の実証
- PJ2 市原DMOと連携した観光振興

(経済→環境)の相乗効果

循環型経済の構築による  
カーボンニュートラルへの貢献

(環境→経済)の相乗効果

地域内資源リサイクルを通じて、  
エンカル消費、地域内消費を促進